

令和3年度

健康教育推進事業（性と心の健康相談）

**実 施 報 告 書**

令和4年4月

福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課

# 令和3年度健康教育推進事業について（報告）

## 【目的】

県立高等学校等の生徒・教職員・保護者を対象に、産婦人科及び精神科医師による講演会や健康相談の実施を通して、「性」及び「心」に関する専門的知識の普及・啓発を図るとともに、不安や悩みの解決に向けての支援を行う。

## 【内容】

- 講演：講演会、講話、職員やPTAの研修会等
- 相談：個別相談、複数の生徒と一緒に相談するグループ相談、保護者や教職員と生徒が同席する相談等

## I 令和3年度実施概要

1 対象校 95校（定時制含む）

### 2 実施状況

①実施校数

	性	心
実施校	86	76
実施率	90.5%	80.0%

②実施回数

		性	心
内訳 (回)	講演	28	8
	相談	75	89

### 3 講演参加者

	性	心
生徒	5,097人	734人
保護者等	0人	0人
教職員	365人	96人
合計	5,462人	830人

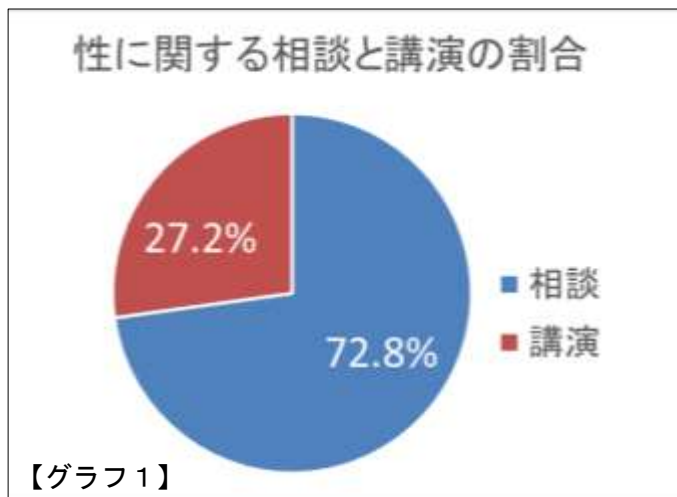
### 4 相談利用者（延数）

	性		心	
生徒	259人	84.6%	151人	52.8%
保護者等	10人	3.3%	53人	18.5%
学級担任	0人	0%	30人	10.5%
養護教諭	36人	11.8%	34人	11.9%
その他の教職員	1人	0.3%	17人	5.9%
その他	0人	0.0%	1人	0.4%
合計	306人	100.0%	286人	100.0%

## II 令和3年度実施状況

### 1 性（産婦人科）

#### (1) 実施形態について

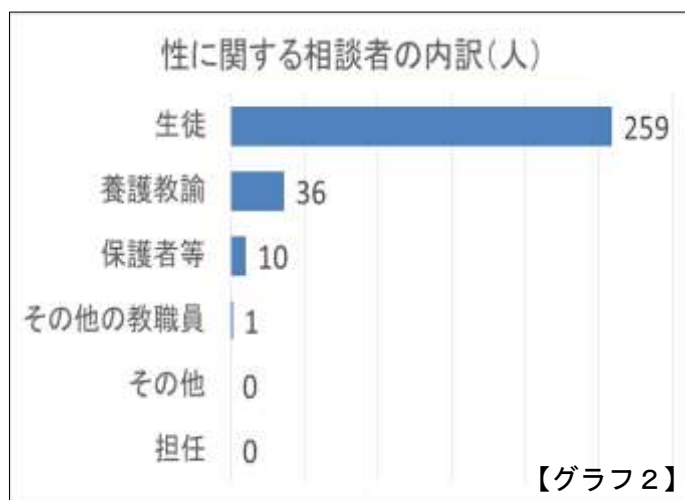


相談での活用が 72.8%、講演での活用が 27.2%であった。

令和2年度は、相談での活用は 80.8%、講演での活用は 19.2%で、講演の割合が微増していた。

#### (2) 相談について

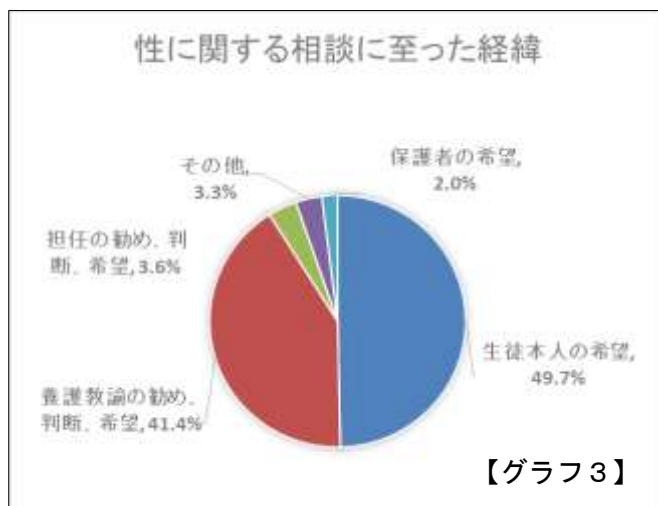
##### ① 相談者の内訳



令和2年度と比較したところ、相談者数は 332 人から 306 人へと微減となった。

内訳については生徒（259 人）、養護教諭（36 人）、保護者等（10 人）の順に多かった。

##### ② 相談に至った経緯



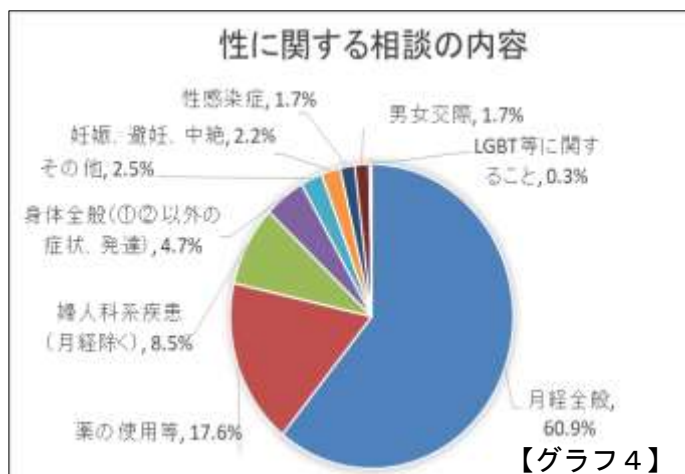
相談に至った経緯は、生徒本人の希望（49.7%）が最も多く、続いて多かったのは養護教諭の勧め（41.4%）であった。

③ 相談の内容

相談内容の延べ件数は、令和2年度より36件減少した。相談の内容は月経全般が60.9%と最も多く、例年と同様に、女子生徒の月経に関わる健康課題が多くあることが分かった。また、多様な性に関する内容についての相談もあった。その他の相談内容としては、子宮頸がんワクチンについての相談や、現在受けている治療についての相談があった。

【表1】 相談内容（延べ件数）

	R2	R3
月経全般	245	221
薬の使用等	56	64
婦人科系の疾患	20	31
身体全般	21	17
その他	11	9
妊娠・避妊・中絶	17	8
性感染症	18	6
男女交際	4	6
LGBT等に関すること	7	1
合計	399	363



【表2】 相談後の経過（延べ件数）

（複数回答）

相談後の経過	R2	R3
生徒に正しい知識等が身に付いた	214	202
病院・相談機関等への受診や相談を勧められた	122	125
生徒本人の考え方、行動等に変化が見られた	60	87
養護教諭の考え方、指導方法、指導内容に変化が見られた	52	45
病院・相談機関等への受診や相談をした	29	19
学級担任等の考え方、指導方法、指導内容等に変化が見られた	10	14
保護者等に変化が見られた	14	11
その他	7	0

④ 相談後の感想や相談を受けた生徒等の具体的な変容

- ・どのような時に病院に行けばいいのかが分かった。
- ・受診した方がいいのか迷っていたので、婦人科の先生に聞くことができて良かった。
- ・婦人科に行きたかったが、コロナの為予約をしなければならず、なかなか行く機会がなかったので、今回気になることを聞いて良かった。
- ・産婦人科は、なかなか行きづらくて行けない。月経について、家族にも相談しにくく一人で悩んでいたこともあった。しかし、専門家なら相談や質問もしやすく、深く学ぶことができた。
- ・親からも受診を勧められていたが、勇気がなく行けていなかった。今回医師にも受診を勧められて、必要性を感じた。
- ・今までネットなどで得た情報が誤りであると分かり、正しい知識を得ることができて良かった。
- ・生理の仕組みが分かった。自分の体をもっと知るために基礎体温をとってみようと思う。
- ・月経痛の対処や性感染症治療について、最新の情報を聞くことができた。
- ・鎮痛剤のをむタイミングが分かった。
- ・処方薬を上手に活用することで体調が改善することもあることを学んだ。（それまでは、薬にはなるべく頼りたくないと思っていた。）

- ・PMS（月経前症候群）の症状で、受診すべきか迷っている生徒の相談について、専門医から「受診して症状を緩和することも大事だが、自分にはそのような傾向があるということを知り、周囲に理解してもらうことが第一だ」と助言していただいた。本人の安心とともに教職員側の意識を変えることができて大変有益であった。
- ・相談後、自身の身体と向き合えるようになり、相談前に比べて表情が明るくなった。
- ・該当生徒来室時に、御指導いただいた「生理痛を緩和するためのストレッチや呼吸法」を実施することが可能になった。
- ・専門医による丁寧でわかりやすい説明で相談内容の理解ができ、不安感が軽減したようだ。受診に関しても保護者の理解が得られなかった生徒が、専門医の助言を保護者に伝えることで保護者の考えに変化が見られるようになった。
- ・生徒自身が自分の身体に目を向け、前向きに捉える事が出来るようになり、それが安心感に繋がった様子がうかがえた。

医師へ相談したことにより、生徒が性に関する正しい知識を身に付けたり、考え方や行動等に変化が見られたりする等の成果がみられている。相談内容 363 件（延べ件数）のうち 125 件が病院や相談機関等への受診や相談を勧められており、それぞれの生徒が抱える健康課題を解決するための貴重な機会となっている。

アンケートの記述等から、生徒にとってはもちろん、校内で相談を受けることの多い養護教諭にとっても受診や服薬等の効果を医師から伺うことができるなど最新の知見を得る機会となっている。

### （3）講演について

#### ① 講演内容

講演は 28 回実施されていた。内容については、表 3 のとおり、幅広い内容を取り上げて実施されていた。

「その他」の内容としては、多様な性、男女交際、SNS における性に関するトラブル、性被害、子宮頸がんワクチン等について取り上げられていた。

【表 3】 講演内容（延べ数） 複数回答

講演内容	R2	R3
思春期の性	16	26
性感染症（エイズを含む）	18	26
妊娠・避妊・中絶	18	26
身体（月経・症状・発達等を含む）	19	25
その他	12	14

#### ② 講演の成果

全ての講演で、正しい知識や理解が深まったという回答が見られた。

また、講演後に 11 件が相談へとつながった。

【表 4】 講演の成果（延べ数） 複数回答

	R2	R3
正しい知識や理解が深まった	20	28
授業との関連ができた	14	21
相談へとつながった	6	11
その他	2	4

#### ③ 講演についての感想

（生徒）

- ・性感染症は保健の授業で学んだことがより詳しく分かって良かった。「自分は大丈夫」ではなく「かかるかも」という意識をもって過ごしたい。
- ・疑問に思っていたことを講演で聞くことができて安心した。異性の体について知ることができて良かった。
- ・ずっと悩んでいたことについて、丁寧に答えていただき安心した。
- ・食生活の内容が心に残った。自立への第一歩としてお弁当を作りたい。自分の行動を変えて人生を変えていきたいと思う。
- ・性感染症について詳しく知ることができた。高校生でも婦人科を気軽に受診して良いということが分かった。
- ・安易な行動で性感染症になるリスクが出ること、実際に画像を見て恐ろしさを知った。

- ・子宮頸がんで3000人もの方が亡くなっていることを知ってとても驚いた。
- ・今回の講座で男性と女性では病気が発生する場所が違うことやどのような病気があるのかを知ることができた。学んだことをいかしてこれから責任をもって行動したい。
- ・自分達の人生に絶対に関わる大事なことを今回の講話で聞いて本当に良かった。中学生の時にも学習はしたが、更に詳しく、特にDVの内容は知らない部分もあったので話を聞くことができて良かった。
- ・正しい知識を知ることができ、将来の自分の行動選択に役立てたいと思った。
- ・私は、性とは少しタブー視されているものだと感じていた。しかし、今回の講演で、性はとても大切なことだと改めて学んだ。一方で、「望まない妊娠」や「性感染症」の問題もあり、性について浅い知識ではいけないと強く感じた。もっと性について正しい知識を得た上で、生活していきたい。
- ・生理痛がひどい場合は、ネットなどの薬ではなく病院を受診する方が良いことを知った。
- ・月経を調整できることを初めて知った。産婦人科に怖いイメージがあったが、電話でも相談できることを知り、今後何かあった時は自分も利用しようと思った。
- ・月経や避妊のことを詳しく知ることができた。
- ・PMSの説明を聞いて、自分の症状と当てはまるので病院に相談に行こうと思う。
- ・過度なダイエットは月経に影響することが分かった。
- ・既に保健の授業で学習したことはあったが、忘れていたこともあり参考になった。STDやがんの危険性、HPVワクチンやアフターピルについても知ることができよかった。
- ・講話で学んだことを家族や友人にも伝えようと思う。
- ・自分だけが悩んでいたのではないと分かりとても安心した。
- ・今だけでなく、将来も役に立つ内容だった。自分のこと、将来のことを大事にしたい。
- ・本当に子どもを望む時まで、無責任な行動はしない。
- ・困っている友人がいれば、今日勉強したことを教えてあげたい。
- ・生理で痛みもともなう出血、出産時のきびしさといい、女性の体は大変だと思った。もっと思いやりをもって接していきたい。
- ・相手のことを思いやること、自分も相手も大切にするために、行動に責任を持たなければいけないと学んだ。
- ・子供を産んで育て上げるのに必要な具体的な金額を知り、親はすごいと思った。何か恩返しできるようしっかりした社会人になりたい。

#### (4) 本事業について

- 実施するに当たっての工夫点や意見（自由記述）

【表5】工夫した内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健室利用状況等から、生理痛がひどい女子生徒をピックアップし、個別に相談を勧めた。相談日を修学旅行前に設定し、生徒が相談しやすい時期に実施した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男子生徒が9割以上を占めるため、個別相談ではなく講演会を実施した。担当医と相談し、対象を1年生として、パワーポイントを使用し「#つながるBOOK」を中心に、思春期における恋愛や月経・妊娠・性感染症のことなど幅広い内容について講話いただいた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全校女子生徒を対象に、月経等についてのアンケート調査を行った。その内容を受けて、産婦人科医にQ&amp;Aで不安や悩みについての回答や助言を行っていただいた。今後、月経痛だけでなく、月経周期やライフスタイルに合わせた月経コントロールについての正しい知識を得られるようなリーフレットを作成し、生徒に配布する予定である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任や学年、所属科、養護教諭等の関係職員で情報交換を密に行い、担当医の助言をもとに生徒を職員全体で支援できるよう連携を図っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性の相談の希望者に事前にアンケートを記入してもらい、相談内容を伝えやすいような工夫をした。また、当日事情により参加できなくなった生徒に対して、アンケートの内容から医師が紙面による助言を書き添ったので、後日生徒に伝えることができた。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒それぞれの家庭環境に配慮するため、配慮してほしい点を講師に伝え、講師の講演内容について事前に打合せを行った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>講話は産婦人科医に来校していただき実施した。コロナウイルス感染症の感染予防の観点から、視聴覚室からオンライン講話をしていただいた。他課程の生徒は、録画した講話を、後日、LHRの時間に視聴した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は、講演会の後感想文を生徒に書かせる。その内容を次回の講演会の内容に取り入れて下さるとのこと。</li> </ul>

**【表6】意見（自由記述）**

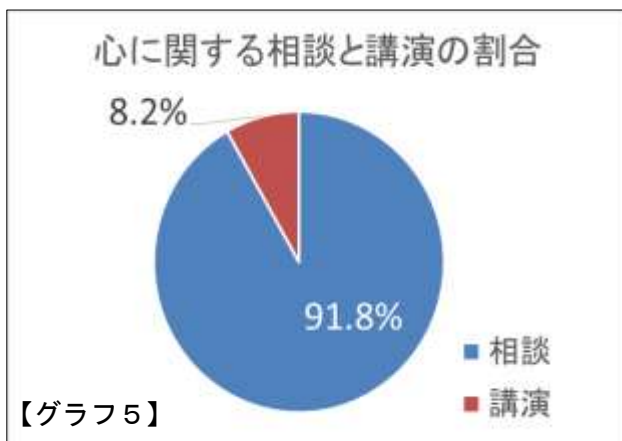
<ul style="list-style-type: none"> <li>産婦人科の受診となるとハードルが高く、本人も保護者もためらってしまう傾向がある。この事業のおかげで、相談という形で産婦人科専門医とのつながりができ、不安の解消や受診への後押しになっている。ぜひ継続してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は相談としてこの事業を活用し、生徒は効果的な助言を受けることができた。一方で、担当の医師からの要望としては、「相談事業は効果的ではあるが、効果を得る人数は少ない。相談事業であれば、複数回実施したらどうか。産科医が学校に出向くのは、時間的に厳しいため、助産師等を複数回派遣するなど、学校と担当医師との相談で、事業活用の形を自由にできるようにしていただきたい。」との話を受けた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>講師は毎年同じではなく、例えば、地区内でローテーションまたは選択制にしてほしい。多様な課題のある性について、幅広く学ぶ機会をつくりたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>産婦人科専門医が学校に近い開業医のため、生徒に認識されており、また、相談等を受けた場合に紹介しやすく、受診を勧めやすいので次年度も継続してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>医師による助言や指導は、相談した生徒にとっても不安が和らぎ、教員としてとても心強く感じている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>定時制含めての実施で、全日制の実施可能な時間帯を優先しているため、定時制の希望者が出にくいのではないかと思う。学校で産婦人科医に相談できるのは、生徒達にとって大変ありがたい事業である。この貴重な時間を生徒達が活用できるよう、周知等に努めたい。</li> </ul>

**(5) 小括**

事前に生徒のニーズを把握し、それを学校と専門医が共有し、講演を実施したり講演と相談をつないだりする等の工夫により充実が図られていた。本事業の実施により、専門医との距離が近づき、学校での講演や相談の実施が受診への橋渡しとなっている。

## 2 心（精神科）

### (1) 実施形態について



相談での活用が 91.8%、講演での活用が 8.2%であった。

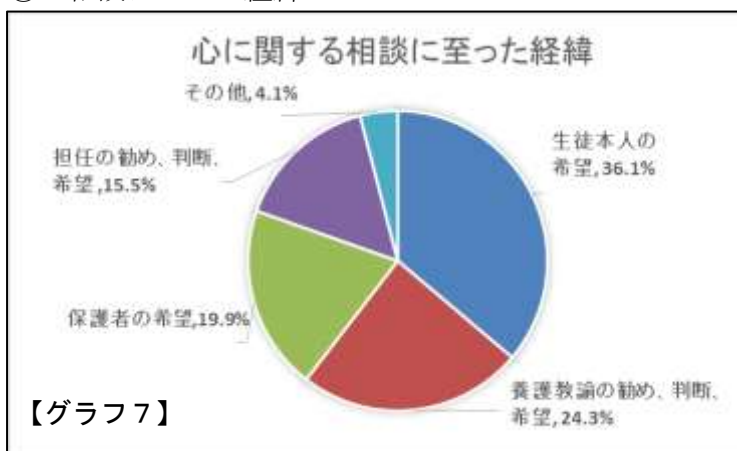
### (2) 相談について

#### ① 相談者の内訳



相談者は、生徒が 151 名 (52.8%) と最も多かった。続いて、保護者等が 53 名 (18.5%)、養護教諭が 34 名 (11.9%) であった。

#### ② 相談に至った経緯



相談に至った経緯は、生徒本人徒の希望が 36.1%と最も多く、続いて養護教諭の勧めが 24.3%となっていた。

その他では、スクールカウンセラーや特別支援コーディネーター等から勧められたケースがあった。

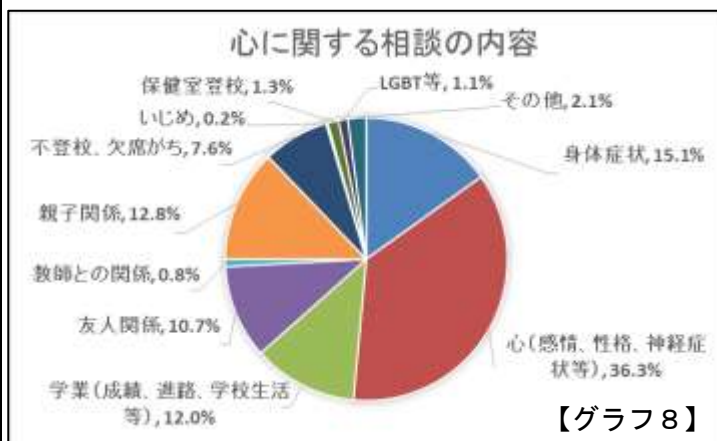


③ 相談の内容

相談内容は、心（感情、性格、精神症状等）に関する内容が最も多く 36.3%であり、身体症状と合わせると 51.4%と半数を占めた。また、学校生活に関連するもの（学業、友人関係、不登校、欠席がち、教師との人間関係、保健室登校、いじめの合計）は、32.6%であった。

【表 7】 相談内容（延べ件数）

	R2	R3
心（感情、性格、精神症状等）	184	173
身体症状	89	72
親子関係	65	61
学業（成績、進路、学校生活等）	105	57
友人関係	55	51
不登校、欠席がち	38	36
その他	15	10
保健室登校	2	6
LGBT等		5
教師との人間関係	7	4
いじめ	2	1
合 計	562	476



【表 8】 相談後の経過（延べ件数）

（複数回答）

	R2	R3
生徒本人の考え方、行動等に変化が見られた	87	79
生徒に正しい知識等が身に付いた	69	60
病院・相談機関等への受診や相談を勧められた	72	57
養護教諭の考え方、指導方法、指導内容等に変化が見られた	57	54
学級担任等の考え方、指導方法、指導内容等に変化が見られた	84	52
保護者に変化が見られた	45	42
病院・相談機関等へ受診や相談をした	20	29
その他	25	10

④ 相談後の感想や相談を受けた生徒等の具体的な変容

- ・とても親身に話を聞いてくれる医師で、相談して良かった。
- ・自分の気持ちを話すことができて良かった。
- ・疑問に思っていることや、悩んでいることについて聞くことができて良かった。
- ・医師から助言されたことをやってみようと思う。
- ・自分が思っていたより、身体が疲れていたことを再認識できた。
- ・精神科や心療内科へのハードルが低くなった。
- ・相談者の条件に合う病院や専門家の目からみて疑われる病気について教えていただき、とても参考になった。
- ・気になる症状が思い過ごしではなく、検査・治療が必要だという助言をいただいた。相談を契機に、教員側から保護者に受診を勧めるような動きを作ることができた。
- ・生徒も保護者も、学校で専門医に相談できる機会があったことを喜んでいて、特に母親は、医療機関を事前に探したが数ヶ月待ちの状態だったため、学校での相談の機会があり安心したようだった。
- ・すぐに医療機関につながらなくても、相談することで不安が軽減し、学校生活の安定を計ることができているケースが多い。
- ・カウンセラーとは違う視点から受診の必要性や服薬について話を聞くことができて良かった。

- ・自己肯定感が低い生徒が専門医から「今は成長過程なのだから心配しなくて大丈夫。」と言われ、安心した様子であった。
- ・勉強が手につかず、睡眠がうまくとれない生徒が、医師の助言により、睡眠をしっかりととり、起きている間に集中ことの大切さを学び、睡眠を見直すようになった。
- ・心療内科に受診している生徒が、今回、主治医と同じ助言を受け、安心していった。また、主治医へ「相談医に相談をしたこと」を報告するよう指導され、今後、医療機関との連携が深まると考えている。
- ・家庭での子供との関わり方で悩みがあったが、まずは自分自身が気持ちに余裕をもって子供と接するように心がけて、学校での様子について、積極的に話を聞いて寄り添っていきたい。

相談後の経過で最も多かったものは、「生徒本人の考え方、行動等に変化が見られた」であり、相談が行動変容に効果的だったことがうかがえた。次いで多かったのは、「生徒に正しい知識等が身に付いた」であった。「病院・相談機関等への受診や相談を勧められた」ケースも多くあり、早期受診・課題解決につながられている。また、専門医からの助言が学校における組織的対応にいかされていることがうかがえた。

### (3) 講演について

#### ① 講演内容

講演は、8回行われていた。新型コロナウイルス感染症の影響で、講演会を相談に切り替えた学校もあり、講演の回数は減っていた。

内容は、思春期の心理、ストレス関連、神経症・精神疾患に関する内容が多かった。

【表9】 講演内容（延べ数） 複数回答

講演内容	R2	R3
思春期の心理	7	7
ストレス関連	6	7
神経症・精神疾患	6	7
薬物	3	4
生徒への対応方法	4	3
その他	3	1

#### ② 講演の成果

講演の成果としては、正しい知識や理解が深まったとの回答が多かった。

【表10】 講演の成果（延べ数） 複数回答

	R2	R3
正しい知識や理解が深まった	7	8
授業との関連ができた	3	3
相談へとつながった	3	2
その他	0	0

#### ③ 講演についての感想

(生徒)

- ・心の健康を保つためには、食事（特に朝食）をしっかりとること、自分にあったストレス解消法を見つけること、完璧な人間をめざさないこと、コミュニケーションが必要であること等の内容を知ることができた。また、睡眠が穏やかな心につながることも知ることができた。
- ・心理学に興味をわき、今後の進路を考えるきっかけになった。
- ・自分を見直す良い機会になった。
- ・良い睡眠をとること、悩みやストレスを抱え込まず、信頼できる人に相談することの大切さを実感した。

(教員)

- ・精神疾患の理解を深めることで、適切な対応や支援ができるのではないかと思った。また、日頃から生徒をよく観察していくことが大切であると学んだ。
- ・思春期における精神疾患についてよく理解できた。

#### (4) 本事業について

○ 実施するに当たっての工夫点や意見

【表 11】工夫した内容（自由記述）

<ul style="list-style-type: none"><li>事例検討会としたため、該当する生徒に関係する教員間で共通理解することができ、連携しやすくなった。また若い教員が具体的事例を通して学ぶことで、身近な問題として捉えることができた。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>LGBTについては、昨年から継続的に相談を受けている。本事業での相談をきっかけに、学校職員や保護者、スクールカウンセラーに気持ちを話せるようになった。現在は、本人の気持ちに寄り添いながら、学校の環境を少しずつ変えている。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>事前に「こころとからだのアンケート」を実施し、スクールカウンセラーに確認してもらった上で相談の対象者に声掛けをした。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>心の健康相談時、カウンセラー、ソーシャルワーカー、訪問相談員、特別支援コーディネーター等との情報共有及び協議の時間をとり、相談した生徒や保護者の事後措置や他の生徒についての事例検討等を通して連携を図っている。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>SCから精神科医へ、精神科医からSCへとつながるケースもある。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>個別相談として活用しているが、その内容を担任や学年、教育相談委員会で共有し、医師からの助言を生徒支援へ繋げている。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>全日制・定時制どちらも利用しやすいよう夕方の時間帯に健康相談の実施時間を設定した。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>相談の際、友達や保護者、養護教諭などの同席も可能であることを周知し、安心して相談が受けられるようにした。</li></ul>

【表 12】意見（自由記述）

<ul style="list-style-type: none"><li>社会環境の変化や、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、心の不調が学校生活に影響を及ぼしていると思われる生徒が増えている。生徒本人のみならず保護者も困っているケースがあり、学校内で精神科専門医の相談の機会を提供するためにも、事業の継続をお願いしたい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>受診を勧めたいが、病院へ行くのには抵抗のある生徒については、この事業は有難い。また、時間をたっぷりって話を聞いていただけだったので、本人も安心して相談することができたようだ。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>生徒支援では精神科医をはじめとしSC、SSC等の外部専門家の活用があるが、生徒の相談内容や症状により養護教諭には精神科医による医学的な見地からの指導助言を必要とするか否かの的確な見極めが重要であることを実感している。相談者への指導助言は言うまでもないが、実施後の関係職員へのコンサルテーションで、教員も学ぶ機会を得ている。本校では例年生徒のニーズが高く、複数回の実施をお願いしたい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>心の健康問題だけでなく、発達特性によって生じる悩み等についても聞いていただける大変貴重な機会となっている。今後も事業を継続していただきたい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>新学期早期に相談を希望する生徒や保護者がいるので開始時期を早めてほしい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>専門医に直接相談できるため、生徒や職員の安心につながっている。また、以前から課題であったLGBTに対して、積極的に取り組むきっかけとなり、意識改革と環境の整備に努めているところである。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>臨床心理士の相談以外に精神科医師の相談があることは、治療が必要な病気であるかどうかの見極めの上で非常に心強い。</li></ul>

## (5) 小括

医師による心の健康相談は生徒による活用が最も多く、相談内容は、心（感情、性格、精神症状等）に関する事、学業に関する事、身体症状に関する事が多かった。相談後は生徒本人の変化だけではなく、学級担任や養護教諭の関わり方に変化が見られたことから、医師によるコンサルテーション機能が成果をもたらしていることが考えられる。

医師による心の健康に関する講演会の実施回数は少なかったが、思春期の心理やストレス関連についての内容が多く、正しい知識の普及を図るとともに、教師の指導力向上にもつながったと考える。

近年、若年教員が増えている現状があり、生徒理解の基盤となる内容について学ぶことができる貴重な研修の機会として活用している学校もみられた。

## III まとめ

### 1 成果

医師による相談や講演を実施することで、個別のニーズや発達段階に応じた内容について生徒自身の知識・理解を深めることができた。また、相談や講演が、生徒にとって専門医の存在を知ったり、身近に感じたりすることのできる機会となっていることは、これから心身の健康を保持増進していく上で大変意義あることと考える。

教員にとっても、相談や講演に関わり、その内容に触れることで、多様な健康課題に対応していくための貴重な学びの場となっている。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、これまでの方法では実施ができない状況も見られたが、各学校で実施方法を工夫しながら実施できていることは、本事業の今後の継続的な実施において大きな成果だと言える。

### 2 課題と今後の対応

- 相談後の経過について、受診や相談を勧められた生徒の受診の状況は、性に関する相談で19件、心に関する相談で29件であった。相談において受診や相談を勧められた生徒については、引き続き、校内での健康相談や個別指導の継続等の事後指導の充実を図っていく必要がある。
- 講演後、「授業との関連ができた」と回答した学校が性に関する講演では28校中21校、心に関する講演では8校中3校であった。保健体育科の授業「精神疾患の予防と回復」や「生涯の各段階における健康」等において医師による講話を取り入れるなど、各教科等の学習と本事業の関連を図って計画を立て、取組の充実を図る必要がある。
- 相談後に、医師の助言等を校内で情報共有し、組織的に対応したという記述が多く、本事業が、学校での組織的対応や教員の生徒指導等における資質・能力の向上に向けた取組においても活用されていることがうかがえた。

今後は、さらに計画的に本事業を活用し、児童生徒等の健康課題の解決に向けた取組の充実を図っていく必要がある。